

平成19年12月19日

平成19年度第2回理事会における重要決定事項の通知

社団法人 日本雪氷学会北海道支部
支部長 山田知充

去る11月13日に開催されたH19年度第2回理事会において決定された重要事項をお知らせ致します。

1) 雪氷災害調査チームの創設

第1回理事会で学会の社会貢献事業の一環として、北海道で発生する雪氷災害現場に直ちに出動し、災害の実態や原因を現地で調査・把握し、求めに応じて災害の防止軽減等に資する指導・助言・提言等を行うと共に、今後の防災に資するため、的確な災害記録をホームページ等適当な媒体に公表するような事業を推進することが了承されました。第2回の理事会において、雪氷災害のうち山岳地域で発生する雪崩災害については研究者だけで現場に入ることが困難な場合が多々あり、適切な危機管理体制のもとに、調査時期を逸することなく迅速に行動することができる組織として、研究者に山岳ガイドや登山家を加えた「雪氷災害調査チーム」の創設が提案されました。審議の結果、チームの創設が承認され、具体的なチームの編成や運用方針等については、今後活動しながら適宜整えて行くこととされました。

現在、研究者12名（尾関俊浩、荒川逸人、石井吉之、岩花 剛、兒玉裕二、澤柿教伸、杉山 慎、八久保晶弘、山田高嗣、山野井克己、中村一樹（気象予報担当）、秋田谷英次（顧問））と山岳ガイド・登山家7名（阿部幹雄（雪崩事故防止研究会、北海道山岳レスキュー研究会）、大西人史（三段山クラブ代表、雪崩事故防止研究会）、佐々木大輔（日本山岳ガイド協会）、塚原 聡（北海道バックカントリーガイド代表、日本山岳ガイド協会）、奈良 亘（日本山岳ガイド協会）、樋口和生（NPO 法人北海道山岳活動サポート、北海道山岳レスキュー研究会、雪崩事故防止研究会、北海道山岳ガイド協会、日本山岳ガイド協会）、宮下岳夫（北海道山岳ガイド協会、日本山岳ガイド協会、国際山岳ガイド連盟））からなる調査チームが組織されています。

調査チームは早速去る11月13日の上ホロカメトック山下降ルンゼ雪崩と同月23日に死者4名を出した上ホロカメトック山化物岩雪崩に出動し、必要な調査と情報の発信を行いました。雪氷学会北海道支部のHPにリンクされた調査チーム専用の下記のHPを立ち上げ、調査結果が公表されていますので興

味のある方は訪ねて見て下さい。

<http://glacier.ees.hokudai.ac.jp/snow/>

2) 北海道支部創立50周年記念事業の実施について

(社)日本雪氷学会 北海道支部は2009年5月18日に創立50周年を迎えます。これを記念して記念行事を実施するかどうか、実施するならばどのような内容にするかを検討し提案するため、「北海道支部創立50周年記念事業準備委員会」(委員長:石本敬志副支部長、委員:秋田谷英次、伊東靖彦、小川直仁、尾関俊浩、金田安弘、古川義純、杉山 眞、的場澄人)で検討されてまいりました。委員会による検討結果が第2回理事会に諮られ審議された結果、実力相応の50周年記念事業を何からかの形で実施することが決定されました。

委員会により記念事業案として;

- 1) 記念講演会と記念パーティーからなる祝賀会の開催
- 2) 支部機関誌「北海道の雪氷」の「北海道支部設立50周年の記念特集号」の出版
- 3) サイエンスカフェ形式の話題提供(対象は一般市民)
- 4) 薄片写真の整備
- 5) 北海道大学総合博物館における「北海道における雪氷研究50年(仮称)」の展示

が提案されています。

これら提案については今後「北海道支部創立50周年記念事業委員会」を立ちあげ、事業項目毎に担当委員を決め、各担当委員が担当毎にワーキンググループ(WG)を組織し、WGの中で具体的な事業内容を実現可能性も含めて検討することとされました。

記念事業委員会の委員(WGのリーダー)の選任については支部長に一任されましたのでご協力をお願い致します。事業委員会における具体的な検討の過程で、上記の事業内容が若干変わる可能性はありえることと考えております。

なお、創立50周年の年である2009年(平成21年)は、北海道支部が全国大会を担う年でもあり、全国から雪氷学会会員が北海道に集まる中での行事の実施となることを申し添えます。